

2023.10.18

UAゼンセン 省庁要請

「介護従事者の処遇改善を」 過去最多62万筆超の署名を厚生労働省に提出



(左3人目から) かわいたかのり議員、日本介護クラフトユニオンの染川会長、宮崎政久副大臣、田村まみ議員

2023年10月18日、UAゼンセンは日本介護クラフトユニオンと共に、厚生労働省を訪問。日本介護クラフトユニオン(=NCCU。介護従事者が会社・職種・雇用形態の枠を超えて結集した労働組合。組合員数は約8万7000名)が実施した、UAゼンセン加盟組合を中心に集約した「2024年介護報酬改定に向けた署名」62万2365筆を、宮崎政久副大臣に署名簿を提出し、介護従事者の処遇改善等を求めました。

厚生労働大臣 殿

UAゼンセン
日本介護クラフトユニオン

要 請 事 項

介護業界の人材不足は依然として高止まり状態が続いており(有効求人倍率3.87倍 2022年11月 全職業1.35倍)、深刻な人材不足により現場の介護従事者は心身ともに疲弊している状態です。また、若い世代の入職者が少なく、介護職の高齢化が進んでいることから、働く側から介護保険制度が崩壊してしまう危険性があり、このままでは増え続ける高齢者が必要な介護サービスを受けることができない「介護難民」が増加する可能性があります。

介護人材の確保・定着のための最大の処方箋は処遇改善しかありません。そして、介護従事者が希望と誇りを持って働き続けられることが、介護保険制度の維持・発展に寄与するとともに、ご利用者に良質なサービスを届けることができると考えています。

また、介護報酬改定のために加算・減算等が増え、利用者・家族をはじめ介護従事者も理解することが困難な状態となっています。介護従事者が、高齢者の自立支援に資するための適切なサービス提供を行うためには、誰もが理解できる簡素で納得性のある制度であるべきと考えます。

こうした観点から、私たちは2024年度介護報酬改定にあたって、下記の要請を行います。

1. 介護従事者が、介護の仕事を安心・安定して永く続けることが出来る水準に介護報酬を設定してください。
2. ご利用者・ご家族そして介護従事者が、理解し納得できるよう簡素な仕組みの介護報酬を設定してください。

◀要請書